

所内研究報告第91号

2021年3月31日

国立社会保障・人口問題研究所 2020～2022 年度人口問題プロジェクト研究

超長寿社会における人口・経済・社会の モデリングと総合分析

— 第1 報告書 —

ま え が き

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、2019 年には男性 81.41 年、女性 87.45 年と、世界有数の長寿国となった。「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」によれば、平均寿命は 2065 年には男性 84.95 年、女性 91.35 年（死亡中位仮定）に達すると推計されている。また、健康寿命の延伸等、世界最長寿国である我が国の長寿化の進展と健康期間の関係等に係る研究等を進めるとともに、得られた研究成果を国内だけでなく対外的に発信する必要性も高まっており、長寿革命にかかる人口学的観点からの総合的研究を行うことが求められている。

このような、世界にも類を見ないわが国の急速な長寿化の進展について、そのメカニズムと背景、死因、長寿化の進展と健康期間の関係、死亡に至るプロセス等を捉えるとともに、人口・経済・社会をモデリングする技術を深化させるため、本研究プロジェクトは①日本版死亡データベースを始めとした人口情報基盤の拡充・発信と将来人口推計への応用、②死因・死亡過程分析、③健康度と寿命の関連分析、④死亡モデルと公的年金の計量モデル分析、⑤人口学的死亡モデルの発展、⑥学際的・国際的研究ネットワークの構築と成果の発信という 6 つの領域から研究を推進している。本事業により、長寿化・高齢化の進展が社会保障等の社会経済システムに及ぼすインパクトが解明されると同時に、高齢化のパイオニアである日本に関する研究分析結果を国際社会に発信することによる国際社会へ貢献が出来る。同時に死亡データベースの整備による将来人口推計の精度向上が期待される。

本報告書はプロジェクトの初年度の研究成果を取りまとめ、「第 1 報告書」として刊行するものである。本報告書は 3 部構成になっており、第 1 部（総論）で研究の概要を述べ、第 2 部（各論）には研究班員による個別論文を収録した。また、第 3 部には新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における死亡者のデータを収載した。

令和 3 年 3 月

国立社会保障・人口問題研究所

「超長寿社会における人口・経済・社会のモデリングと総合分析」プロジェクト

(所内委員)

是川 夕 (国際関係部長)

林 玲子 (副所長)

泉田信行 (社会保障応用分析研究部長)

別府志海 (情報調査分析部第2室長)

佐藤 格 (社会保障基礎理論研究部第1室長)

菅 桂太 (人口構造研究部第1室長)

井上 希 (社会保障基礎理論研究部研究員)

中村真理子 (人口動向研究部研究員)

(所外委員)

石井 太 (慶應義塾大学教授)

大津 唯 (埼玉大学准教授)

齋藤安彦 (日本大学教授)

篠原恵美子 (東京大学特任助教)

増田幹人 (駒澤大学准教授)

フランス・メレ (フランス国立人口研究所上席研究員)

目 次

第1部 研究概要

超長寿社会における人口・経済・社会のモデリングと総合分析 —第1 報告書—	3
--	---

第2部 研究論文

日本版死亡データベースの新たな死因分類提案と年齢調整死亡率への応用 石井太	11
日本における新型コロナウイルス感染症と死亡数の減少 林玲子・別府志海・石井太	27
マクロ計量モデルにおける賃金率・利子率の決定方法の整理 佐藤格・石井太・増田幹人	51

第3部 資料

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における死亡者のデータ	59
--	----